

放牧で育った牛を肥育したら!?

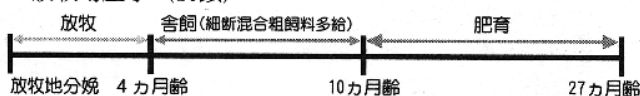
福島県畜産試験場沼尻支場

背景：放牧場で育成した子牛は、子牛セリ市場において評価が低い状況にありました。これは、肥育農家の不安材料となる一因として、①畜舎内で育成した子牛と比べて発育が劣る、②放牧育成した素牛の肥育特性が明らかではない、というものがあつたからです。そこで放牧場産子の市場評価向上のためには、その後の肥育成績が舎飼育成された肥育素牛と同等であることを検証する必要がありました。

今回の調査では、放牧場産子と舎飼産子を一般肥育農家において同一条件で肥育して、その産肉成績について比較・検討しました。

検証方法：放牧場産子と舎飼産子を10～27ヶ月齢まで同一条件で肥育しました。

・放牧場産子（10頭）

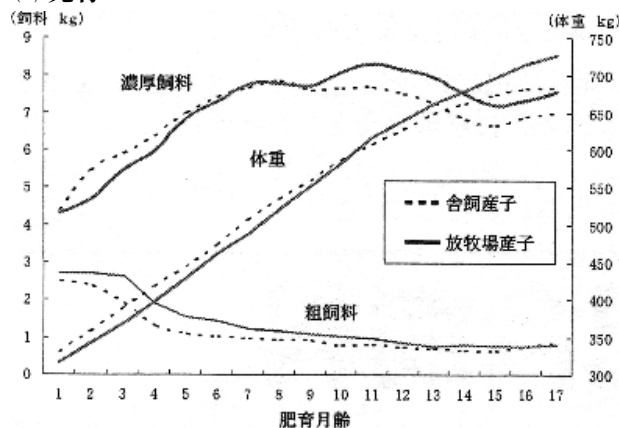


・舎飼産子（10頭）



検証結果

(1) 発育



- ・放牧場産子は濃厚飼料で5%、粗飼料で19%多く食いついた。
- ・肥育始めは、放牧場産子は舎飼産子よりも発育が劣っていましたが、終了時には放牧場産子732kg、舎飼産子697kgと逆転しました。

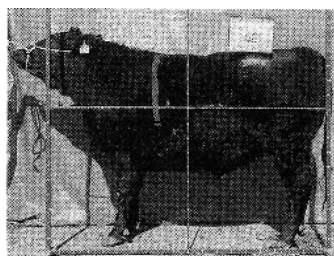
(2) 枝肉成績

		枝肉重量 kg	ロース芯 面積 cm ²	バラの 厚さ cm	BMS%	格付け
舎飼産子 (n=10)	平均	438.5	55.6	7.7	5.4	A5:1 A4:4
	標準偏差	40.1	5.4	0.5	1.2	A3:2 A2:3
放牧場産子 (n=10)	平均	453.4	55.4	8.2	5.1	A5:1 A4:3
	標準偏差	31.9	7.2	0.8	2.4	A3:4 A2:2
全国値 ^{注)}	平均	436.0	51.5	7.4	5.3	—
	標準偏差	52.0	7.5	0.9	2.1	—
福島県値 ^{注)}	平均	454.0	53.0	7.8	5.9	—
	標準偏差	51.0	7.6	0.9	2.1	—

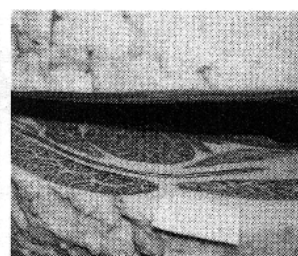
注) 舎飼産子、放牧場産子の各区は福島県有種雄牛で同様の血統構成とした

全国値・福島県値「平成12年度黒毛和種肉質向上緊急対策事業」((社)家畜改良事業団)

舎飼・放牧場産子の平均出荷月齢は27～28ヵ月齢、全国値は30ヵ月齢、福島県値は31ヵ月齢



▲放牧場産子
終了時800kg(27ヵ月齢)

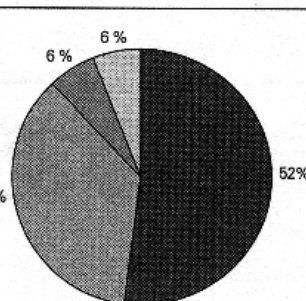


▲放牧場産子
枝肉重量519kg・BMS No. 9

・放牧場産子でも、良好な発育・優れた枝肉成績！

実証農家の所感：(放牧場産子のメリットと感じるもの)

■事故・病気が少ない ■枝肉重量が大きい
■体型が良い ■餌の食い込みが良い



実証農家は、事故・病気が少ないことを放牧場産子最大のメリットと感じており、次いで、枝肉重量が大きくなることを高く評価していて、今後も積極的に放牧場産子を導入したい！という意向でした。

放牧で育った子牛を肥育すると、舎飼で育った子牛と比べて肉量・肉質は同程度となり、事故・病気が少ないことが大きなメリットとなる。